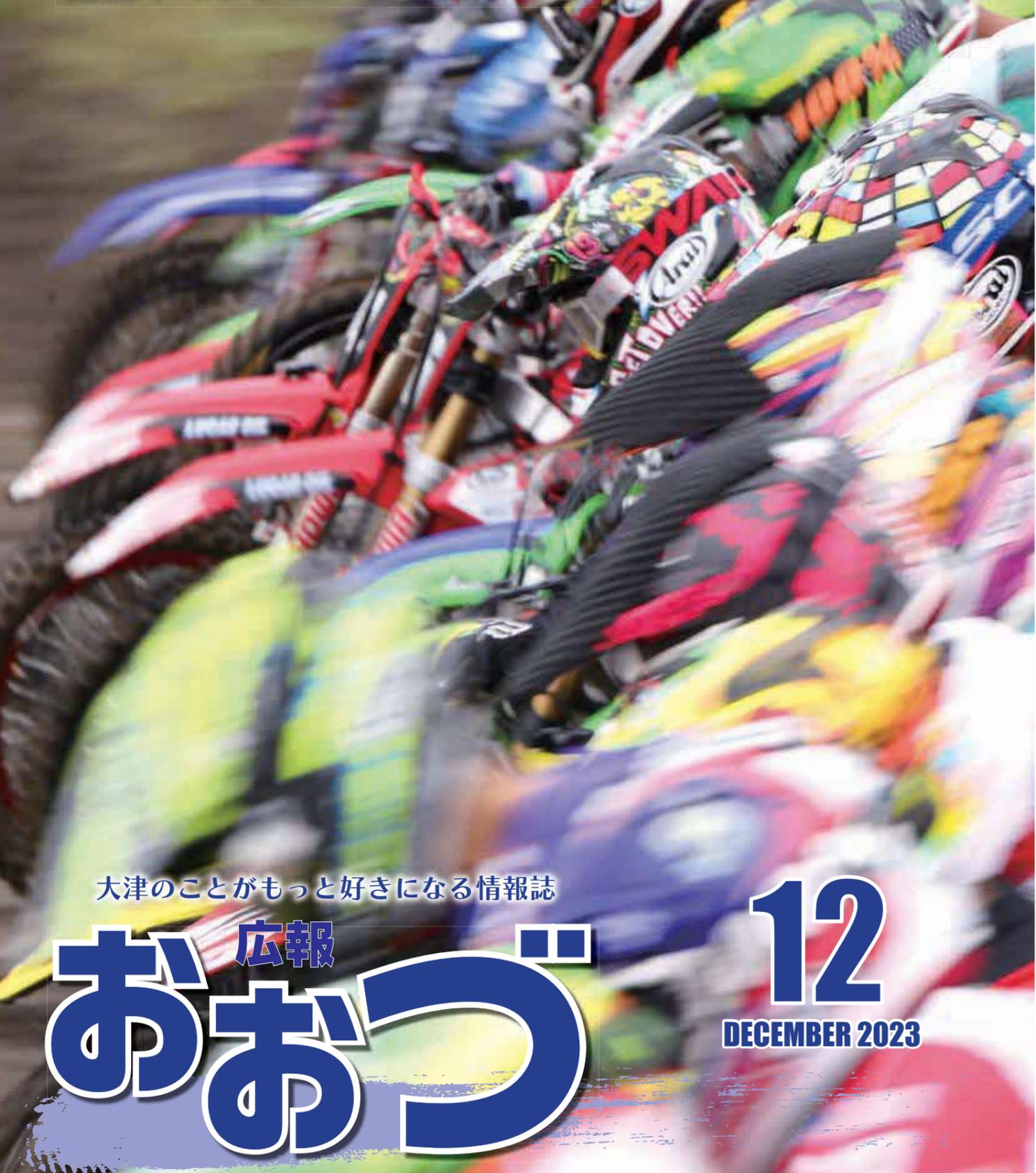


◀上田さんが一番感謝を伝えたいという2人。母のさつきさん④と場面緘黙を克服させてくれたメンタルケア心安代表で公認心理師のなかの園はるな先生⑤。姫藍さんが目標とする先生です。



Public relations
OZU TOWN

熱き戦いの舞台
大津町で開催—。
全日本モトクロス選手権第7戦



うえだきあら
上田姫藍さん(美咲野)

話したくても
話せない、
「場面緘黙」を
知ってほしい

小さいときから「場面緘黙」という精神疾患に悩み、克服した上田姫藍さん。場面緘黙に向き合ったその姿をクローズアップする。

自宅では普通に話せるのに、自宅以外の場所になると言葉が発することができない精神疾患の一つである「場面緘黙」。人によって話せる度合いは変わるが、上田さんは学校やお店など家以外の場所では全く話せなかった。

「高校2年生の頃、実習先で介護施設に行ったのですが、言いたいことがあるのに言葉が詰まって発することができないことがありました。『同級生は普通に話せるのになぜ自分は話せないのだろう』と、とても悩みました。そのとき、母が症状のことをいろいろと調べてくれて、場面緘黙に詳しい先生に出会いました。そこで初めて自分が場面緘黙なんだと認識しました」と話せない原因が分かって安心したという上田さん。

上田さんは、先生と一緒に場面緘黙を克服するためトレーニングが始まりました。「月1回のカウンセリングでは、先生とのやりとりは言葉を書き交わさない筆談やうなづきから始まり、少しずつ会話を増やしていきました。また、同じ悩みを持つ人たちと一緒に勉強やゲームをしながら、他人と話す環境に慣れていった。家族以外の人と会話ができるようになるまで半年かかったが高校3年生の時に「学校の先生に自分の思いを伝えることができたとき、人と会話をすることが楽しいと思えました」と感じたのが場面緘黙を克服した瞬間だった。場面緘黙という同じ悩みを持つ人に寄り添いたいと願う上田さん。まだまだ道の途中で夢はたくさんある。先生のようにになりたいと願い、場面緘黙を克服したときのように、今も頑張っている上田さんの笑顔は明るい。

こころの声

▼今月は「ありがとうの伝え方」をテーマに障がい福祉の特集を掲載しました。障がいがある人などに話を聞いて気づいたことがたくさんありました。例えば、庭の草木が道路まではみ出していると視覚に障がいがある人にとっては障壁になることや、手話を使う時は目を見て口を大きく開けて話すことなど、当たり前のことですが意識しないとできないことです。障がいがある人の困りごとを想像することや声掛けできることがあるのではないのでしょうか。まずは「ありがとう」と、手話や言葉、文字で伝えていきたいですね。誰もが笑顔で暮らせる大津町になるために(末永)



UD FONT
見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

広報 おおづ 2023 12

発行・編集 大津町 総合政策課
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293) 3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 株式会社
印刷 株式会社

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

おおづ

12
DECEMBER 2023